

講義名	(対面)教育方法論【教職に関する科目】		
科目区分	教職に関する科目		
担当教員	西尾 範博 / 水田 聖一		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>教職に関する科目(教職課程及び指導法に関する科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) <p>現在学校教育は大きな転換点を迎えている。学校が存在理由、教育の内容や授業実践の様式が問題にされ、教師のあり方が厳しく問われている。そういう時代だからこそ、授業実践そのものをより根源的にかつ包括的に問い直す必要があるように思われる。この授業では、日々の教育を対象化して批判的・反省的に検討しうる新しいまなざしを提供する。これから求められる授業実践(教育方法)への新しい視点をもたらすことにもなる。</p>			

到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の歴史と現代の諸実践について学ぶ。 ・授業と学習、教室のコミュニケーション、カリキュラム、教師の役割、コンピュータと教育など、授業論、教育の技術、教育の評価について学ぶ。 			

提出課題			
プレゼンテーション用パワーポイント、ノート提出、小レポート(感想・コメント)提出			

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック			
毎回のプレゼンテーションの後、コメントと改善点を指導する。			

評価の基準			
定期試験・プレゼンテーション試験(60%)、小レポート・発表課題(40%)			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>毎回休まずに出席することが大切。欠席の多いものは成績も下がります。この授業では4回以上欠席者は、試験を受けることができません。</p> <p>A以上の成績を多く取らないと、教育実習に行けません。</p> <p>テキストを購入しないものは、授業に出ることを禁ず。</p>			

教科書				
.よくわかる授業論.	田中耕治	ミネルヴァ書房	2600	9784623043323

プリント資料及び参考文献				
<p>佐藤学『教育方法学』(岩波書店、1996年)</p> <p>高等学校学級指導要領</p> <p>文部科学省ホームページ</p>				

授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法史 ベ斯塔ロッチの直観教授法、ヘルバルト派の5段階教授論、デューイの経験主義学習論、ブルーナーの発見学習 2. 教育方法史 マスタリー・ラーニング(完全習得学習)、フレネ教育、木下竹次の合科学習、及川平治と「分団式動的教育法」 3. 教育方法史 生活単元学習と問題解決学習、生活綴方、数学教育協議会と水道方式、仮説実験授業と授業書 4. 授業づくりをめぐる現代的課題 日本型高学力の問題と学びからの逃走、学力低下とゆとり教育・新学力観 5. 授業づくりをめぐる現代的課題 総合的な学習と「学び」の授業づくり、教師の揺らぎとバーンアウト 6. 授業づくりの基礎理論 経験主義的教育:教育と生活の結合、系統主義的教育:教育と科学の結合 7. 授業づくりの基礎理論 授業における学力と人格の問題:教育的教授そして教科指導と生活指導の関係 8. 授業における子どもの学び 子どもの意欲と授業、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 9. 教育目標・教育内容の設定 学習指導要領と教育内容の計画、学習活動のまとまりとしての単元 10. 教材開発と授業の構想 教育内容と教材・教具、教材解釈と教材開発、教材としての教科書 11. 教材開発と授業の構想 教育メディアの効果的活用、学習指導案の作成 12. 学習形態の工夫 一斉教授、個に応じた指導、協同学習、子ども同士のやりとりを重視する授業、探求的な学習、問題解決学習、表現活動、体験学習 13. 授業展開を導く教授行為 授業の流れをどうつくるか、教師の指導言、深い思考を促す発問の工夫、机間指導 14. 教育評価を活かした授業づくり 診断的評価・形成的評価・総括的評価、ポートフォリオ評価、相対評価と絶対評価、指導要録 15. 特別なニーズをもつ子どもたちへの対応 障害のある児童・生徒の教育、LD・ADHD 16. テスト 				

授業形態(アクティブ・ラーニング)				
ア:	PBL(課題解決型学習)			
イ:	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
ウ:	ディスカッション、ディベート			
エ:	グループワーク			
オ:	プレゼンテーション			
カ:	実習、フィールドワーク			

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>テキストに従って進むので、毎回予習・復習を行うこと。</p> <p>教育実習に備えて、学生諸君にパワーポイントによる発表をしてもらうので、よく準備すること。</p>				

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				

実務経験の有無及び活用				

備考				
<p>教員の免許状取得のための必修科目</p> <p>1~5回は水田担当</p> <p>6~15回、西尾担当</p> <p>定期試験は水田担当</p>				